

自分らしい暮らしを支える複合福祉拠点

都市再生機構（UR）グリーンプラザ園生団地の敷地内に、高齢者向け住宅をはじめ、障がい者、子育て世帯などを支援する複合福祉拠点が整備されている。地域住民の生活ニーズに応えながら、幅広い世代やさまざまなライフスタイルの人々が暮らしやすいまちづくりを目指すモデルケースとして期待されている。

入居者の意向を重視する

サポート付き高齢者住宅

グリーンプラザ園生団地の敷地内に設けられた「生活クラブいなげビレッジ虹と風」は、社会福祉法人生活クラブ、生活クラブ生協、ワーカーズコレクティブ、NPOなどの団体が協同運営され、千葉県内で介護をはじめ多様なサービスを行っている。これまでに高齢者向け住宅としては、バリアフリー化され、「緊急時対応サービス」の利用が可能な高齢者専用賃貸住宅（高専賃）を柏市や船橋市に設立してきた。

昭和38年当時、日本住宅公団が建設した園生団地の建て替えに際して、高層住宅に集約することで生まれる土地に高齢者向け住宅と高齢者、障がい者、子育て世帯を支援する複合福祉拠点の整備が計画された。これに応募した当初から在宅介護サービスを充実させることが想定されていた。池田徹理事長は「月20万円程度の負担が必要な『サポートハウス稲毛』にみんなが入居できるわけではありません。団地にお住まいのまま利用できる在宅サービスの提供が必要です」と語る。

公募を経て事業者として選ばれ、国



生活クラブ風の村
理事長
池田 徹氏

土交通省の「高齢者・障害者・子育て世帯居住安定化推進事業」にも応募し、モデルケースとなった。そして、平成23年8月、「生活クラブいなげビレッジ虹と風」をオープン。施設の特徴は、地域住民のさまざまなニーズに応えるサービスを取り揃えたことだった。

※雇うー雇われるという関係ではなく、働く者同士が共同で出資し、それぞれが事業主として対等に働く形態。

多様な福祉サービスで生活の質を高める

生活クラブいなげビレッジ虹と風は「虹の街」「風の村」の2つの棟で構成されている（p9参照）。「虹の街」には、地域住民の生活を支援するサービスを集めた。食料品店、カフェ、福祉用具のレンタル、鍼灸院、子どもの一時預かりなど多岐にわたる。

一方、「風の村」には訪問看護やデイ



サービス、24時間365日対応の診療所など医療・福祉の支援サービスを集めた。3階には高齢者向け住宅「サポートハウス稲毛」がある。18㎡の個室が20室あり、入居者のプライバシーが守られ、見守りサービスなどを利用することもできる。フロアの中央には共用スペースのリビングとキッチンがあり、料理することも可能だ。

居住者は、同じ建物内にある施設や各種サービスを利用しながら生活している。現在はすでに満室。ほとんどの入居者が介護の必要な方で、中には介護認定5の入居者もいるという。

施設長である日下直人氏は、「あくまで住宅なので入居者の方の行動は自由です。リスクはありますがご本人のご意向を重視します。元気な方は買い物や習い事に出かけたり、お祭りなどの地域交流に参加されています」と語る。

理事長の池田氏は、介護サービスや福祉施設だけでなく、各種サポート付きの高齢者向け住宅を備えたことについて、「特別養護老人ホームだけが高齢者の終の住処として整備されていくことなどありません。人生の最期まで自分らしい暮らしを続けられるのはとても大切なことです。そのための複合福祉拠点を作りたいかったです。近年では『地域包括ケアシステム』が重要視されるようになりました。その考え方は、住宅を中心とした30分圏内に医

福祉施設、地域との連携による居住環境整備

地域コミュニティ(グリーンプラザ園生団地)

複合福祉拠点「生活クラブいなげビレッジ虹と風」

【生活クラブ 風の村 いなげ】

訪問看護ステーション
園生診療所
(外来診療・訪問診療/24時間365日対応)

デイサービスセンター稲毛



【生活クラブ 虹の街 いなげ】

ワーカーズコレクティブ“San”
・惣菜・お弁当の店「ボナペティ」
・カフェ「Cache-Cache(カシカカシ)」



サポートハウス稲毛
(高齢者向け住宅)

訪問介護
ステーション



NPO VAICコミュニティケア研究所

・生活相談事業
・子どもの一時預かり事業「たあーたん」
・見守りサービス
・地域交流事業の企画運営 あみいこamico



障がい児通所支援
「あかとんぼ稲毛」



生活クラブ生協千葉
・デポー園生
(青果店・買い物代行サービス)



鍼灸マッサージ院稲毛
(外来施術・訪問施術)

㈱生活サポートクラブ
(福祉用具のレンタル・販売など)

地域活動
スペース
虹

ショートステイ
稲毛



療・介護・生活支援・予防などのサービスを提供できる地域体制を整備し、高齢者を支援していこうというものです。ここはまさにサービスの連携によって地域包括ケアのモデルケースになるものです。こういう複合福祉拠点を行政と民間の福祉団体が連携して地域ごとに作っていけば、地域包括ケアシステムはきつと広がっていくと思います」と語る。

幅広い世代の暮らしを支える 地域「コミュニティづくり」

虹の街いなげにあるカフェは、施設の利用者だけでなく近所の主婦や家族連れがランチを楽しみ憩いの場になっている。子ども一時預かりや障がい児のデイサービスは、子育て世帯にとって強い味方だ。

高齢者だけでなく、働きざかりの若い世代や子ども達にも暮らしやすい地域づくりをしていくことが、地域の活性化につながる。

スタッフは、団地の敷地内では、誰にでも挨拶をするよう心がけている。施設主催のイベントを行うとともに、グリーンプラザ園生団地の自治会に参加するなど、地域住民との関わりにも積極적이다。生活の質の向上を目指しているからこそその活動だと言えるだろう。(社福)生活クラブは、多様な人々が求めるサービスを提供しながら、地域コミュニティを再生していくことにも挑戦している。

働く人・利用する人、それぞれの立場で

多岐にわたるサービスを提供する「生活クラブいなげビレッジ虹と風」。日々の現場で利用者を支えるスタッフ、施設を活用する利用者の方々に、それぞれの思いを伺った。

VOICE

ここならではの柔軟な姿勢で
入居者を見守ってきたい

【働いています!】



山下圭子さん
(介護ステーション稲毛所長)

サポートハウス稲毛の入居者の方には介護保険のサービスだけでなく、独自のサービスも組み合わせながら柔軟に対応するよう努めています。最近では見守りも兼ねて、10時と3時にリビングでお茶を入れてみなさんと過ごす時間をつくっています。共通の話題を見つけながら、入居者の方々の間でもコミュニケーションが生まれるよう心がけています。

自宅近くに
デイサービスができ
家族も助かっています

【利用しています!】



大竹洋子さん
大竹鈴也くん

息子の鈴也は脳性麻痺で生まれたときから自由に動くことができません。私たちの住む稲毛区には肢体不自由の児童が通うデイサービスがありませんでした。自宅から車で数分の場所に「あかとんぼ稲毛」ができて迎いもあるので助かっています。週に3回ほど利用していますが、デイサービスの日はたくさん遊んでぐっすり眠ってくれるので、とても嬉しいです。



介護をしつつ、自分の時間も
もてるようになりました

【利用しています!】

今から3年前、夫が狭心症のカテーテル手術中に脳梗塞をおこしてしまい半身不随となりました。以来、2年間ほど自宅やバリアフリーの賃貸マンションで在宅介護を続けましたが、このまま自分ひとりで介護を続けたいら倒れてしまうという危機感を抱いていました。「サポートハウス稲毛」なら夫の介護をしながら、自分の生活も立て直せると思ったんです。

私自身も文京区から夫の部屋の近くにある団地へ転居してきました。朝8時に夫の部屋へ歩いていき夜8時まで介護をし、夜間は見守りサービスを利用しています。食事は、自宅で作ってきて、共用キッチンで温めて一緒に食べています。週に2日はデイサービスがありますし、在宅介護もお願いできるので、友だちに会う時間もできました。子どもたちからは「お母さん、顔が明るくなったね」と言われます。



白井新七さん
白井たま江さん

キッチンやリビングの
ある共用スペース

